

飯田市立小中学校の 今後のあり方に関する方針（たたき台）

飯田市教育委員会

飯田市立小中学校を取り巻く背景

1 少子化に伴う児童・生徒数の減少

- ・ 児童・生徒数の急激な減少

H18年度9,726名→R5年度7,574名（△22.1%）

R11年度見込み6,437名（今後の減少見込み 約190名/年）

- ・ 学級数の減少

H18年度339学級→R5年度277学級（△18.3%）

R11年度見込み257学級

現状でも文科省が望ましいとしている規模（小学校12学級以上、中学校9学級以上）より小規模な学校が多く、その傾向がさらに進む。

2 学校施設の老朽化

- ・ 小中学校28校のうち12校が令和5年度時点で国の改築目安とされる築後50年を経過、今後10年の内には25校が長寿命化のための大規模改修や改築についての検討が必要な状況

飯田市立小中学校における教育の特徴

1 小中連携・一貫教育の推進

- ・小中学校の教職員間の相互理解を深め、教育活動における連携を充実させていくことにより個々の子供の状況に応じた適切な指導を行い、子供の確かな学びと成長を実現していくことを目的に実施。
- ・各中学校区で、小中学校の教職員間の連携会議が行われ、児童・生徒の交流活動も定着。
- ・中一ギャップによる不登校生徒の増加や、中学校進学後の学力の伸び悩みといった課題が徐々に改善。外国語活動から英語教育に至る系統的な教育実践、ふるさと学習を中核としたキャリア教育等も行われるようになる。

2 飯田コミュニティスクールの推進

- ・飯田コミュニティスクールの発足により、学校・地域・家庭が「めざす子供像」を共有し、その実現に向けて相互の取組を承認し合い、協働する取組。地域人材を活用した教育活動が充実し、地域資源を活かしたふるさと学習へとつながっている。

3 飯田型キャリア教育の推進

- ・中学校の職場体験からスタート、その後対象を小学校まで拡大し、ふるさと学習を中核に据えた小中学校でのキャリア教育へ。さらに幼保・小・中・高・大で発達段階に応じた切れ目のないキャリア教育を推進。
- ・自らの生き方を主体的に切りひらき、人とつながりあっていくための力を育み、未来の地域の担い手や地域を支える人づくりを目指している。

飯田市立小中学校の今後のあり方について(たたき台)

現在の中学校区ごとの小中学校を 小中一貫型小中学校として9つの「学園」に

1 考え方・目指す姿

- ・これまで取り組んできた小中連携・一貫教育をさらに確かなものとし、充実・発展させていくための配置枠組・教育活動を目指す。
- ・義務教育9年間の小中一貫した学びと小中学校の垣根を超えた教職員の連携によって学力向上等を目指す。
- ・飯田コミュニティスクールの取組と飯田型キャリア教育の取組を活かした特色ある学びを特設カリキュラムとして設定し、地域とともに進めていく。

2 施設配置形態

- ・当面は現状の小中学校施設を活用した「施設分離型」とする。
- ・今後の児童生徒数の推移や、学校施設の改修・改築の必要性等を勘案し地域特性等にも配慮しながら地域との協議を重ねたうえで、「施設一体型」や「施設隣接型」を整備することも検討の選択肢に含める。また、義務教育学校の選択肢も併せて検討する。

【参考】小中一貫教育の推進に向けた新たな学校形態

区 分	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
学年区割	小学校6年、中学校3年（6-3制）	発達段階や教育課題に応じて4-3-2制や5-4制等の設定が可能
組織運営	小中それぞれに校長・教職員組織 ※小中学校における教育を一貫して進めるためにふさわしい運営の仕組みを整えること	一人の校長 一つの教職員組織
教員免許	所属する学校種の免許状を保有していること	原則として小中両方の免許状を併有していること
教育課程	9年間の教育目標の設定 9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程	
独自教科の設定	可能（ふるさと科・地域づくり科・自然と暮らし科等）	
施設形態	施設一体型、施設隣接型、施設分離型	
標準規模	小中それぞれ12学級以上18学級以下	18学級以上27学級以下
設置手続き	市教育委員会規則等	市条例

「小中一貫型小中学校」としての「9つの学園」 (イメージ)

飯田西学園

飯田西中学校
丸山小学校

飯田東学園

飯田東中学校
浜井場小学校
追手町小学校
丸山小学校

高陵学園

高陵中学校
座光寺小学校
上郷小学校

鼎学園

鼎中学校
鼎小学校

基本理念

- ①これまで積み重ねてきた「小中連携・一貫教育」を、より確かな仕組みとして、義務教育9年間の連続的な学びを充実します
- ②飯田コミュニティスクールの仕組みを活用し、地域が参画・協働して地域の担い手を育みます
- ③飯田型キャリア教育等を活かした特設カリキュラムを設定し、各学園で特色ある教育を行います
- ④小中学校の垣根を超えた教職員のチームとしての教育力を高めます

緑ヶ丘学園

緑ヶ丘中学校
松尾小学校
下久堅小学校
竜丘小学校

旭ヶ丘学園

旭ヶ丘中学校
山本小学校
伊賀良小学校

竜東学園

竜東中学校
上久堅小学校
千代小学校
千栄小学校
龍江小学校

竜峡学園

竜峡中学校
龍江小学校
川路小学校
三穂小学校

遠山郷学園

遠山中学校
上村小学校
和田小学校

※教育委員会規則により「学園」を規定することを想定しています。



小中一貫校として
中学校区を単位に

検討素案

9つの『学園』をつくります

飯田東学園 飯田西学園 緑ヶ丘学園 竜東学園 竜峽学園 旭ヶ丘学園 鼎学園 高陵学園 遠山郷学園

目的

これまでの「小中連携・一貫教育」
をさらに進めることで

- ☆ 子供たちの確かな学力を育みます
- ☆ 子供たちの生き抜く力を育みます
- ☆ 地域の将来の担い手を育みます

教育目標がつながる

学園ごとに、中学卒業時にめざす子供の姿を、小中学校の先生・保護者・地域のみなさんが共有します。

教育活動がつながる

各教科の教育課程や、授業以外の特別活動において、9年間のつながりを意識した教育を行います。

子供たちがつながる

小中学生の交流機会も充実させて、異年齢の子供たちがつながり学び合う教育を行います。

先生がつながる

子供たちのために、小中学校の先生が一つのチームになり、連携・協働して教育活動を行います。

地域・学校・家庭がつながる

地域や保護者の皆さんも学校運営や教育活動に参画するコミュニティスクールの仕組みを活かして特色ある教育を行います。

- ① 小中一貫校では、通常の教科以外に「特設カリキュラム」を設定することができます。
飯田市では、「飯田型キャリア教育」を軸に「特設カリキュラム」を編成して、コミュニティスクールの仕組みにより地域のみなさんに参画・協働していただき、各学園ごとの地域特性を生かした特色ある教育活動を進めます。
- ② 学園内の学校間移動に時間を要するため、職員連携や子供たちの協働学習の場面ではICT(情報通信技術)を有効に活用します。
- ③ 飯田市の小中一貫校は、教育委員会規則で定め、小中学校の施設を別々においた「施設分離型」でスタートします。

飯田型キャリア教育

- ☆ 自ら主体的に生き方を切りひらき、人とつながり生きる力をそなえ、ふるさとを心根において、未来の地域の担い手や支え手となる人を学校・地域・家庭が協働して育みます。
- ☆ 地域の資源や課題を学習教材に、子供たちは多様な人と関わりながら、実体験を通じた探究的な学びを行ないます。

園保の学び

小学校部におけるキャリア教育

中学校部におけるキャリア教育

高校の学び

遊びの中で地域を感じる・体験する

→ 地域について学び、考え、伝える

→ 地域とつながり、関わる

→ 地域の課題を探究し行動・貢献する

